

(4) アユ (サケ目アユ科)

① 分布

中下流域の集落

② 主に見られた場所
川

③ 採録した呼び名

- ・ 共通 アイ, アユ (全集落)
- ・ 稚魚・小型魚 ジアイ, アイゴ
- ・ 秋に川を流下 オチアイ, オチアユ

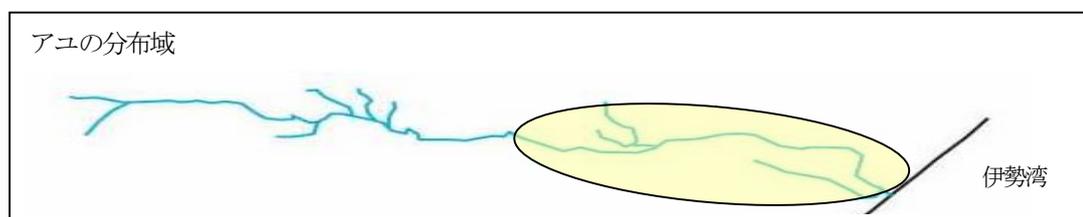


④ 分布と呼び名について

亀山市下庄町付近から河口にかけての本川で見られたという。

呼び名としては、流域全体で標準和名である「アユ」を含め、稚魚・小型魚、秋に成魚となり川を下るものなど計6種採録した。

戦前、流域では「アユ」と呼ぶより「アイ」が呼ぶのが一般的であったようであり、アユの生息の有無にかかわらず、全集落から両呼び名を採録した。



⑤ その他

流域で見られた大部分のアユは 10 cm程度の小型魚であったようで、時折見られた大型魚は他の河川を下ったものが中ノ川に再遡上したものと考えられている。

なお、亀山市中庄町付近より上流の集落ではアユの生息情報は得られなかったが、これは中ノ川では川幅が狭く「ゆせぎ」などと呼ばれる灌漑用の堰堤が数多く造られていたために遡上が阻まれたものと考えられる。

(4) -2 アマゴ・イワナ類 (サケ目サケ科)

調査からは生息情報は得られなかった。(呼び名は特に記録せず)

(5) トゲウオ科の魚 (トゲウオ目トゲウオ科)

写真に加え、「巣を作る魚」と補足説明を加え調査を行ったが、生息情報は得られなかった。

(6) ナマズ (ナマズ目ナマズ科)

① 分布

最上流域を除く全集落

② 主に見られた場所

川, 水路, 池, 田

③ 採録した呼び名

- ・ 共通 ナマズ (全集落)
- ・ 稚魚 デンボコ, ナマコ, ナマズコ
- ・ 成長年数 シンナマズ, イチネンコ, ニネンコ, サンネンコ, ヨネンコ, ゴネンコ
(ニネンゴ, サンネンゴなどと語尾が濁って呼ぶ場合もある模様)
- ・ その他 ナマデン

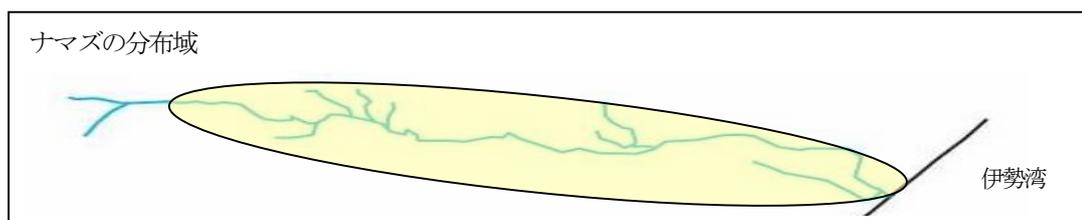


④ 分布と呼び名について

最上流域を除くほぼ流域全域の川, 水路, 池でよく見られたとともに, 中下流域では水田でも大型魚や稚魚が時期により見られたという。

呼び名としては, 標準和名である「ナマズ」を全集落から採録したのをはじめ, 大きさ別のものなど計 11 種採録した。

稚魚は「ナマズコ」又はその省略型とみられる「ナマコ」と呼ばれたり, また年々大きくなる大型魚であることから, 「ニネンコ」など成長年数で呼ばれたりするなど, 大きさに様々な呼び名が付けられており, 生息数が多い中下流域でより多様な呼び方がされる傾向にあった。



⑤ その他

ウナギとともに地域住民の関心の高かった魚であり, 中下流域では梅雨時期などにいっせいに川を遡上する光景が見られ, 橋の上から大型魚を狙ってヤスで突くことができたともいう。

(6) -2 アカザ (ナマズ目アカザ科)

① 分布

最上流域と下流域を除く全集落

② 主に見られた場所

川, 水路

③ 採録した呼び名

- ・ 体色 アカダ, アカナマ, アカナマズ
- ・ 捕獲時に刺す デンキナマズ
- ・ 捕獲時の音 ギュウ
- ・ その他 ガンピ, ギミ, ギン

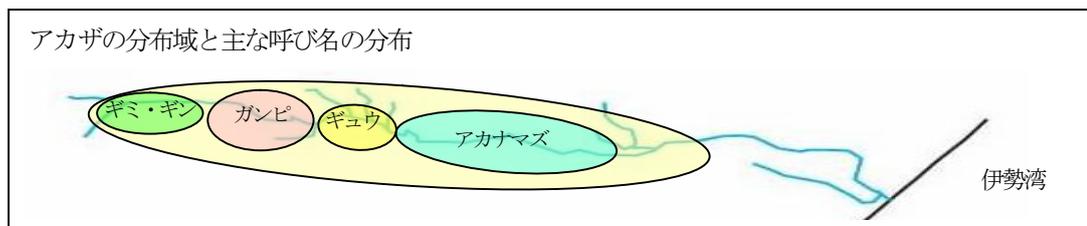


④ 分布と呼び名について

上流域から中流域にかけての川, 水路でよく見られたという。

呼び名としては, ナマズに似た形態, 赤い体色, 刺されると痛みを伴うことからのものなど計8種採録した。

なお, 旧天名村付近から下流域はわずかしは見られず, 固有の呼び名は採録されなかった。



⑤ その他

刺すことから嫌われもので, 取る対象ではなかったという。

(6) -3 ネコギギ (ナマズ目ギギ科)

写真とともに, 「アカザ (集落での呼び名を使用) と同じような大きさで, 黒又は黄色のナマズ」などと補足説明 (鈴鹿川と同様な方法) を加え調査を行ったが, 生息情報は得られなかった。

(7) ウナギ (一部オオウナギの可能性あり) (ウナギ目ウナギ科)

① 分布

流域の全集落

② 主に見られた場所

川, 水路, 池, 田など

③ 採録した呼び名

- ・ 共通 ウナギ (全集落)
- ・ 稚魚 (小型魚) イトウナギ, ソーメンウナギ, ハリウナギ, ビリ, ビルカン, メソ, メツ, ミミズウナギ, メメズウナギ
- ・ 居付いている ジウナギ, ジナ, ジナッポ
- ・ 秋に川を流下 オチウナギ
- ・ 黒斑点のもの イモクシウナギ, ゴマウナギ, ソバカスウナギ, ナマズウナギ
- ・ その他 カニクイ, ガニクイ

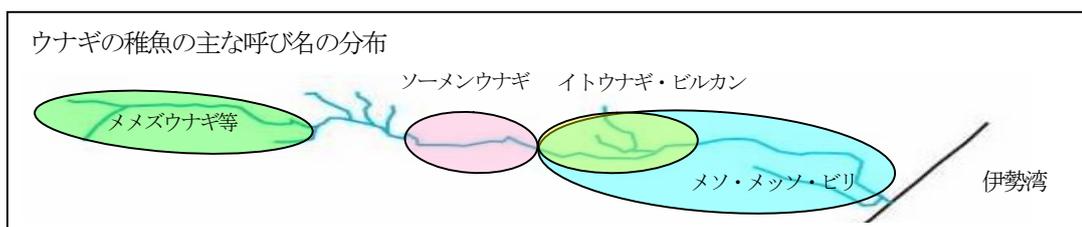


④ 分布と呼び名について

流域全域の川, 水路, 池のほか, 水田でもよく見られたという。

呼び名としては, 標準和名である「ウナギ」をはじめ, 模様や大きさなどによる呼び名を計 20 種採録した。

身近な大型魚であるとともに, 貴重な食料源として流域住民に最も関心が高かった魚であり, 成長過程や体色, 海から遡上し何年か過ごした後, 夏から秋に川を下るといったことから多様な呼び名がみられた。また, 下流域では稚魚がその成長段階で複数の呼び名で区別されていた集落がみられた。



⑤ その他

上流域では夜に田へウナギを取りに行くことを指す「夜田 (よた) に行く」という表現があり, それだけウナギの田への遡上が見られたようである。また, 中下流域ではかつて護岸として河岸に杭を打ち, 堤防との間に多数の玉石などを入れた「千本杭」と呼ばれた所があり, そこでウナギが数多く見られたという。

※ オオウナギについて

ウナギの呼び名の調査において、オオウナギの可能性のある呼び名を流域全体から次の6種採録した。

黒斑点	イモクシウナギ, ゴマウナギ, ソバカスウナギ, ナマズウナギ
その他	カニクイ, ガニクイ

こうした呼び名のウナギは、一般のウナギに比べ数が非常に少なく、比較的大型で体全体に黒い斑があるといい、オオウナギ特有の特徴を持っていたようである。(また一部の呼び名が示すようにナマズに似た頭を持っていた。)なお、「カニクイ」、「ガニクイ」については特徴が不明確な面があるが、過去の文献(「熊野灘沿岸地方の淡水魚:1959:岡田弥一郎他」など)でオオウナギとされていることからここに含めた。

本調査においてはオオウナギを調査対象としておらず、ウナギの昔の呼び名を調査してゆく中で、こうした呼び名を採録したものである。ここにおいては、こうした呼び名のウナギがオオウナギの可能性があるとこの指摘のみ行っておく。

(8) スナヤツメ (ヤツメウナギ目ヤツメウナギ科)

① 分布

最上流域及び最下流域を除く集落

② 主に見られた場所

川, 水路

③ 採録した呼び名

- ・ 共通 ヤツメ, ヤツメウナギ

④ 分布と呼び名について

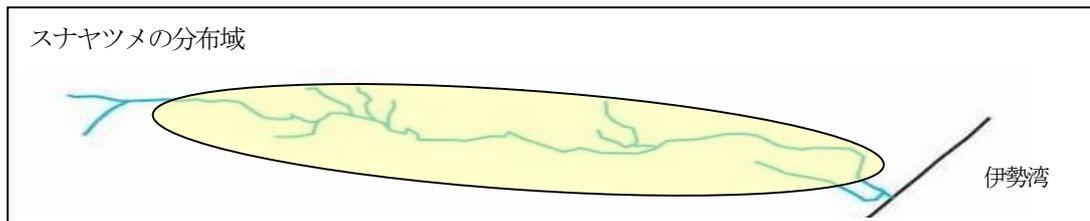
上流域から下流域にかけて、川を中心として水路でもよく見られたという。

呼び名としては、目が八つあるように見えることから名付けられた「ヤツメウナギ」及びその省略形である「ヤツメ」の計2種を採録した。

なお、特徴が明確でない小型魚はウナギの稚魚と同様に呼ばれることもあったようである。



スナヤツメの分布域



⑤ その他

堰堤下や石の下などに群生していたという話が聞かれた。